

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

平成27年11月13日（金）5年教室

指導者 5年 担任 山口 伸一

1 単元名 「実りの秋だよ」

2 年間指導計画における本単元の位置付け

南関米に 挑戦しよう (10 時間)	水俣に学ぶ (8 時間)	実りの秋だよ (15 時間)	ふるさと 体験学習 (8 時間)	学んだことを まとめよう (18 時間)
--------------------------	-----------------	-------------------	------------------------	----------------------------

3 単元について

(1) 教師の願いと題材の価値

南関町は、水田や畑が広がり、自然豊かで、農業が盛んな町である。また、町内には、参勤交替で休憩・宿泊場所として使われていた史跡「豊前街道南関御茶屋跡」や特産品として南関そうめんや南関あげ、小代焼など数々の自慢できるものがある。その一つに、熊本のブランド米である「南関米」がある。

本校では、地域の方々の協力を得て、実際に米作りを行っている。田植えから収穫までの米作りを実際に行ったり、地域の名人さんの話を聞いたりするなどのかわりの中で、米作りに携わる方々の喜びや苦勞を体感できると考える。これを通して、わが町南関町を誇りに思うことができ、米などの食料生産に携わっている方々への感謝の気持ちをもたせるとともに、この米作りの将来や自分との関わりなどを仲間と共に考える機会としたい。

米作りについては、児童は社会科で学習しており、社会科の学習と関連付けながら探究的な学習を進めていくことは、本単元の目標を達成する上で大変有効であると考えている。

(2) 児童の実態 (21 人)

意識調査から、総合的な学習の時間を「学校から離れて、いろいろなことが調べられるから」などという理由で、「好き」や「楽しい」と思っている児童が半分以上いる。そのために、体験的な活動には意欲的に取り組むが、話し合ったりまとめたりする学習になると、あまり積極的ではない。事前アンケートから、児童は調べてきたことをまとめる際の自力解決やグループでの共同解決といった話し合い活動が苦手なようである。それに、田植えや稲刈りなどの米作りの体験も半数程度の児童しか経験がなく、体験活動をすることで米作りの喜びや苦勞を味わわせたい。

このような体験を通して、米作りの素晴らしさを自分のものとし、これから将来にわたって、米作りや地域とどのように関わっていけばよいかをみんなで考えるようにしたい。

【課題発見力】

全体的に、諸活動で疑問や気付きを見つけることはできるが、課題設定や課題解決の見通しを持つことは苦手である。

【問題解決力】

自分たちで調べるために、本やインターネットを使って調べる傾向が強い。

【判断力】

集めた情報をもとに、課題に対する自分の考えをもつことがあまりできない。

【表現力】

考えたことや思ったことを人前で発表することが苦手である。

【自己表現力】

これまで、3年生では「地域」、4年生では「ホテル」「関川」をテーマに学習してきた。地域に積極的に足を運び調べ学習を行い、進んで学習の参加している姿が見られた。

(3) 研究の視点にそった授業づくりについて

視点1「主体的に学ぶ探究的な学習展開の工夫」について

ア 課題設定	社会科の学習と関連させながら、収穫した南関米をみんなに知ってもらうために、どのように広めていくかという目的意識をもたせ、関心・意欲をもたせるようにする。
イ 情報収集	地域の米作りに携わっている方々や南関町役場の広報担当の方など、積極的に人とのかかわる活動をとることで、必要な情報を集めさせるようにするとともに、喜びや苦勞を感じられるようにする。
ウ 整理・分析	文章にまとめることで、自分の考えをはっきりさせ、グループで話し合う時間を十分に確保する。各自で調べたことを出し合えるようにして、いろいろな考えに触れさせるようにする。
エ まとめ・表現	発表会での発表を目標にして、国語科の学習と関連させながら、相手意識をもたせ、発表した達成感や相手に伝わったという満足感を味わわせる。

視点2「共に学び合う協同的な学習展開に工夫」について

ア 収集した多様な情報を交換、活用して共に学ぶ場	グループ活動の中で、お互いに質疑応答し合うなどの話し合いを通して、協力しながら共に学び合うという気持ちをもてるようにする。
イ 異なる視点から考えて共に学ぶ	協同的に取り組む場を多く取り入れ、様々な考えを出し合うなど、お互いを認め合うことができるようにする。
ウ 力を合わせたり交流したりして学ぶ場	友達と力を合わせたり、地域の方々と交流したりすることで協同的に学ぶことができるように支援する。

視点3「思考ツールの効果的な活用」について

ウェビングマップを作成しながら、子どもたちの考えを出し合わせ、自分たちの課題をまとめるようにし、その課題をクラス全体で共有化できるようにする。

視点4「学びの達成感や自信をもたせ、学ぼうとする力を育てる評価の工夫」について

意識調査や実態調査を行い、授業づくりに生かすようにする。また、自己評価シートを準備し、活動ごとに自分が新たに学んだこと等という自己評価に取り組むようにし、自分の伸びが分かるようにする。そして、学習のまとめをすることで、子どもたちの変容をとらえるようにする。
--

4 単元の目標

南関米の栽培に挑戦した体験から、自分たちに必要な情報を整理・分析し、課題解決を図りながら、南関米の大切さに気付き、米作りの体験活動を通して、地域の米作りの将来、そして、これからの自分たちの地域との関わりや将来の展望に生かしていくことができる。

【評価規準】

観 点	評 価 規 準
課題発見力	米づくりなどにかかわっている方々との出会いを通して、自分なりの課題を設定することができる。
問題解決力	南関米作りの体験を通して、課題を発見し、その解決に向けた多様な情報を集め、必要な情報を整理・分析し、課題解決の術を探ることができる。
判 断 力	調べていく中で、友達の意見や地域の方々などの話を聞き、それらの考えなどから、自分の考えにつなげることができる。
表 現 力	伝えたい相手や目的に応じて、分かりやすくまとめることができ、それをみんなに分かりやすく伝えることができる。
自己表現力	南関米のよさを、これからもたくさんの人に伝えたり、大切にしていこうという思いをお互いに伝え合ったりすることができる。

5 単元の指導計画（15 時間取り扱い）

単元の目標 地域の宝「南関米」を収穫し、収穫を喜ぼう。そして、未来について考えよう。

過程	学 習 活 動	教師の指導と評価 ○指導評価規準 () 観点【 】評価方法	時間	他教科等との関連
さ ぐ ろ う	実りの秋だよ Part I ～南関米づくりのふりかえり～ 1 お米を食べるまでの段階を調べる。	○南関米づくりの活動のことを思い出し、収穫後のことについての学習について考えるようにする。 学習の目的や進め方をつかみ、自分なりに課題をもつことができる。 (課題発見力)【発言・シート】		
か ん が え よ う	実りの秋だよ Part I ～みんなで米を守ろう～ 2 収穫するまでの仕事を出し合い、今後の活動の見通しをもつ。 3 かかしなどを作って、田に役立てる。	○課題を設定する際には、一人一人の考えや気づきを大切に、子どもと一緒に考えていくようにする。 ○スズメが田んぼに来ている様子を見せ、スズメから米を守る方法を考え、様々な害から米を守っていることにつなげる。 学んだことを体験を通して感じ、考えることができる。 (問題解決力)【発言・行動・シート】	1 3	GT 松原さん
き づ こ う	実りの秋だよ Part II ～稲刈りなどを体験しよう～ 4 稲刈りをする。 5 脱穀を体験する。	○機械ではなく、手作業で昔の道具を使って作業することで、現代との違いに気付くことができるようにする。 ○昔の道具の足踏み脱穀機やとうみなどを使うことで、収穫後も大変な仕事があることに気付くことができるようにする。 様々な体験をすることで、米作りの喜びや苦勞に気付くことができる。 (判断力)【行動・シート】	3 3	社会「米づくりのさかんな地域」 GT 松原さん
つ た え よ う	実りの秋に感謝しよう ～みんなに伝えよう～ 6 学習発表会で、集まってきた方々に、感謝の気持ちを伝える方法を考える。	○お世話になってきた方々に感謝の気持ちを伝えるという目的意識を持って、考えることができるようにする。 感謝の気持ちをもって、相手や目的を意識して考えることができる。 (表現力)【発言・シート】	2 本時	学活「お楽しみ会をしよう」
こ う ど う し よ う	実りの秋に感謝しよう ～米作りの将来について考えよう～ 7 感謝祭をする。	○感謝の気持ちをもって、自分たちの考えや思いを広げたり、深めたりできるようにする。また、米作りの将来について考えを深める。 感謝の気持ちをもち、感謝祭に取り組むことができる。 (自己表現力)【行動・シート】	2	家庭「物を生かして住みやすく」 国語「天気を予想する」

6 本時の学習 (12/15)

(1) 目標

南関米づくりで様々な方々に協力してもらいながら作ってきたことから、感謝の気持ちを持ち、どのような方法で自分の考えや思いを表すことができるか、仲間と共に考えることができる。

(2) 展開

時間	主な活動 予想される児童の姿	教師の指導と評価 ◇発問・指示 ○指導 □評価 【 】評価方法	備考
2	1 今までの学習を振り返る。 2 お世話になった松原さんの話を聞く。 3 めあてをつかむ。	○これまで活動してきた写真を提示し、前時までの学習を振り返ることができるようにする。 ○お世話になった松原さんの米作りに対する思いを理解できるようにする。 ○学習してきたことを想起し、松原さんの話を聞いたりすることで、めあてを明確につかむことができるようにする。	電子黒板 GT 松原さん 掲示物～これまでの活動写真
	お世話になった方など、たくさんの方へ感謝の気持ちを伝えるために何ができるか考えよう		
23	4 感謝の気持ちを伝えるための活動を考える。 (1)個人で考える。 (2)グループでまとめる。	◇感謝の気持ちを伝えるための活動を考えよう。 ○マンダラを活用し、個人でしっかりと自分の考えをもつ時間を確保する。 ○感謝だけでなく、南関米のよさも伝えていいうようにする。 ○ブレインストーミングを用いて、グループで自分の考えをしっかりと友達に伝え、互いの考えをまとめるようにする。	学習シート 活動時間をみんなで設定 小黒板 活動時間をみんなで設定
	感謝の気持ちをもって、相手や目的を意識して考えることができる。(表現力)【発言・シート】		
7	5 考えたことを全体で発表する。	◇グループでまとめたことを発表してください。 ○発表に対して、発表するよさを感じることができるよう発表に対して賞賛の言葉をかける。	
	まとめ 感謝の気持ちを伝える方法として、収穫したお米を使った料理を出したり、米作りの苦労や素晴らしさなど自分が学べたことを伝えるために工夫したりしたこと等について発表する。		
5	6 学習を振り返る。	○これからの子どもたちが意欲的に活動をするために、子どもたちのよかった点を積極的に紹介する。	自己評価シート